



琉球大学資料館(風樹館)

風樹館だより



2010(平成22)年5月1日発行 第3号

はじめに

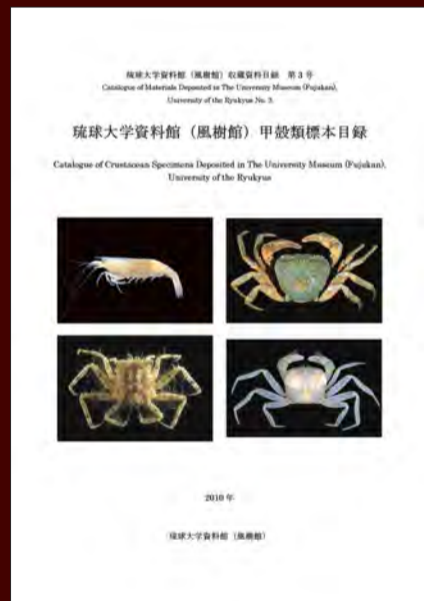
琉球大学資料館(風樹館)は、旧首里キャンパス時代に、県内企業の金城キク商会から建物の寄贈を受け、古農具類や動植物標本の展示を中心とした農学部附属の農業資料館(風樹館)として昭和42年に開館しました。当時、国内の大学にはまだ附属の博物館は少なく、日本の「ユニバーシティ・ミュージアム」の草分け的存在でした。その後、本学の千原キャンパスへの移転に伴い、昭和60年に全学共同利用施設として現在の資料館が新たに整備されました。当館には、おもに学内の研究活動によって琉球列島各地で収集された4万点余りの標本や資料が収蔵されており、特に琉球文化圏と亜熱帯地域という本学ならではの研究フィールドを背景としたユニークな学術資料が蓄積されています。

≪収蔵資料目録第2号、3号、4号発行!≫

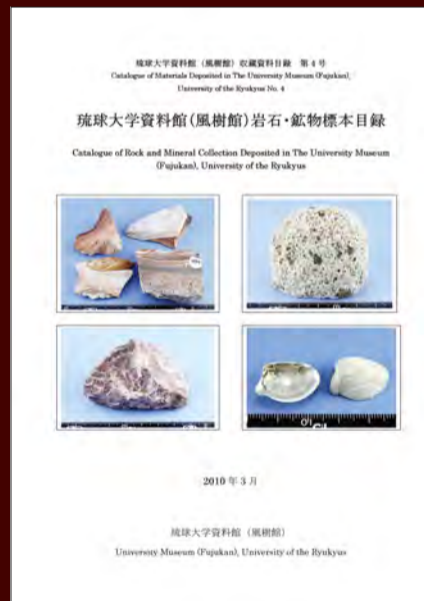
風樹館収蔵資料目録第2号「甲殻類標本目録」、第3号「二枚貝類標本目録」、第4号「岩石類標本目録」を発行しました。



2009年12月までに収蔵した二枚貝類標本4350点13646個体761種を掲載。



2010年1月までに収蔵した甲殻類標本365種1000点以上を掲載。

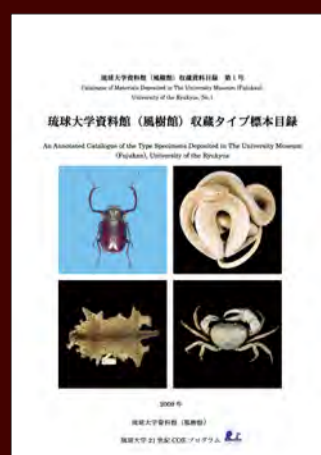


2009年12月までに収蔵した地学資料2774点を掲載。

<既刊について>

第1号「タイプ標本目録」(2009年), 268点収録

生物標本の中でも学術上極めて重要な標本。2009年2月までに収蔵したタイプ標本83種2亜種268点を掲載。



※ 既刊目録については、当館ホームページでPDFファイルを公開しています。

目次

- 01: はじめに
収蔵資料目録第2号、第3号、第4号発行!
- 02: ようこそ大学博物館へ
～実物標本で見る沖縄の自然と文化～ in 那覇空港
「沖縄の草花玩具と藁算の作り方」ワークショップ in 国立科学博物館
風樹館コレクション No.3 大龍柱頭部破片(阿形)
- 03: 社会貢献への取り組み
教育支援活動
- 04: 2009(平成21)年度来観者数
2010(平成22)年度行事予定
2010(平成22)年度運営体制
利用案内



ようこそ大学博物館へ～実物標本で見る沖縄の自然と文化～ in 那覇空港

平成22年2月16日から26日の間、那覇空港2階ホールにて、風樹館の出前展示会を開催しました。日本最南端の沖縄県に位置し、県内唯一の総合大学である琉球大学は、沖縄を中心とするアジアや太平洋地域の知の発展に貢献し、「地域特性と国際性を併せ持つ個性豊かな大学」を創りあげると同時に多様な教育研究を進めています。今回、琉球大学資料館では初の試みとして、沖縄を訪れた方々や県民の皆様に見ていただくために、当館が所蔵する貴重な実物標本の中から、沖縄の自然と文化を代表する生物標本や民俗資料の一部を選んで展示しました。



「沖縄の草花玩具と藁算の作り方」ワークショップ in 国立科学博物館

平成21年3月24日から5月17日まで国立科学博物館で開催された企画展「琉球の植物」の関連イベントとして、4月26日（日）に「沖縄の草花玩具と藁算の作り方」ワークショップを実施しました。沖縄から材料のマーニ（クログツ）、ソテツ、藁、サンニン（月桃）などを持っていき、現地の参加者に沖縄の植物を紹介しながら伝統玩具や道具の作り方を実演しました。



◇ 風樹館コレクション No.3 【大龍柱頭部破片（阿形）】

本資料は、大龍柱（阿形）の頭部の一部です。細粒砂岩（方言名：ニービの骨）製で、宝珠をつかむ四つの爪と角が確認できます。大龍柱は少なくとも過去3回は造り替えられており、この資料は1709年の首里城火災後に制作され、沖縄戦で破壊されるまで正殿前に立っていた三代目の大龍柱であると思われます。沖縄県立博物館には、この阿形の大龍柱と対になると思われる吽形の大龍柱の頭部が保管されています。



※当館には、生物に学名を与える（種の記載）際に用いられたタイプ標本や学術上重要な資料が多数収蔵されています。

社会貢献への取り組み

当館では県内の学校や公民館などと連携して、地域の学校教育や生涯学習における教育支援活動を推進しており、毎年30件を越える出前授業や講演会などを実施しています。また、教職員を対象とした教員免許更新講習や研修会なども行っており、教員のリカレント教育の場としての資料館の活用も進めています。このほか、平成18年度には県内初の「学校ビオトープ見本園」を裏庭に整備し、環境教育や自然観察などに活用しています。

当館では、今後も大学で生産される様々な学術資料の保存と利用体制の整備を進め学内外の研究活動をサポートするとともに、標本展示や地域への教育支援などを通じて、積極的に社会貢献活動にも取り組んでいきたいと考えています。



小学校の総合学習での利用



小学生の昆虫標本教室



小学生の理科の授業



校ビオトープ見本園での自然観察



屋外での自然観察会



高校生による「沖縄の自然と環境問題」に関する特別授業

◇ 教育支援活動

昨年度は、南風原町公民館や沖縄市三郷公民館などと連携して、大学博物館での学習講座を開設したほか、小・中学校での総合学習における出前授業や講演会などを実施してきました。また、教育機関との連携による教職員を対象とした研修や講演会なども実施し、教員のリカレント教育の場として資料館を活用する事業も進めています。



ハンズオン展示(実物標本)で学習



沖縄の伝統草玩具の講習会



実物標本の観察



ビオトープでの理科の野外授業

自然学習の理論と方法・宿泊学習指導者研修会 (沖縄県立石川少年自然の家)

沖縄の貴重な生き物たち (那覇市立神原小学校)

虫と友達になろう (浦添市立浦城小学校)

昆虫と友達になろう (西原町立西原小学校)

公民館講座「大学博物館を探検しよう」(南風原町立中央公民館)

昆虫標本教室 (沖縄生物教育研究会)

森の博士になろう! (沖縄市美里公民館子供クラブ)

サイエンスワークショップ やんばるの自然と生き物たち (琉球大学/開邦高校)

沖縄の自然と文化 (日本私立小学校九州区教員研修会理科部会)

浦添市教員研修会 (浦添市教員研修会)

石垣島の森を知ろう (自然環境研究センター/米原公民館)

ビオトープと環境問題 (那覇市立松川小学校)

資料館での自然体験学習 (沖縄県立鏡ヶ丘特別支援学校高等部)



2009（平成 21）年度入館者数

2009（平成 21）年度入館者総数は、1,310 人でした。内訳は、学内学生 339 人、県内学生 620 人、県内一般 166 人、県外学生 67 人、県外一般 118 人です。県内学生については小学校等の社会科見学や総合学習、理科の授業等の団体利用が増えています。

※ ただし、入館無料のため来観名簿への記入者が少なく、実際の入館者数はさらに多いと思われます。

2010（平成 22）年度行事予定

◇ 企画展等の開催

- ・ 企画展「昆虫標本をつくってみよう！」（平成 22 年 7 月 26 日～8 月 13 日）
昆虫標本の学術的な重要性を知るとともに、地域の生物や自然環境への関心を高めることを目的に展示と標本作製の講習会を実施する。
- ・ 特別展「沖縄の草花玩具で遊ぼう！」（平成 22 年 8 月 16 日～11 月 25 日）
沖縄の伝統的な草花玩具の普及と作成方法の継承を目的に、草花玩具類の展示と作成方法のワークショップを実施する。

◇ 教育支援・地域連携事業

- ・ 夏休み子ども自由研究 in 沖縄コンベンションセンター 2010
（平成 22 年 7 月 31 日（土）～8 月 1 日（日）10:00～18:00）
昆虫をテーマにした学習教材開発における実践的研究の一環として、出張昆虫館を出展し、各種ワークショップを実施する。（沖縄の昆虫標本展示／昆虫標本作成教室／草玩具工作／パネル展示等）

2010（平成 22）年度運営体制

各学部の代表者（教授）1 名からなる、琉球大学資料館（風樹館）運営委員会を設置し、以下の体制のもとに運営を行う。

- 館長（農学部教授兼任）：辻 瑞樹
- 学芸員（常勤）：佐々木 健志
- 事務補佐員（非常勤）：島袋 美由紀
- 学生ボランティア（随時）

- 運営委員：鈴木 正士（法文学部・准教授）、松本 晶子（観光産業科学部・教授）、田吹 亮一（教育学部・教授）、横田 昌嗣（理学部・教授）、當間 孝子（医学部・教授）、玉城 史朗（工学部・教授）、小倉 剛（農学部・准教授）

◇ 利用案内

開館時間：午前 10 時～午後 5 時
休館日：土・日・祝日・12 月 28 日～1 月 4 日
* その他、臨時に休館する場合があります。
入館料：無料
住所：沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
Tel./Fax：098-895-8841
E-mail：fujukan@agr.u-ryukyu.ac.jp
URL：http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp

公共交通機関：
那覇バスターミナルから 97 番か 98 番で「琉球大学北口」下車（所要時間約 1 時間）那覇空港からは高速バスで「琉球大学北口」下車（所要時間 34 分）。資料館（風樹館）まで徒歩 6～10 分。

